

村の元気を発信しよう！ ふくしま大交流フェスタに出展



村のブースにも多くの方が足を止め、試飲や試食を楽しみました。美味しさに会話ははずみず

12月9日、東京国際フォーラム(東京都千代田区)で行われた「ふくしま大交流フェスタ2018」に村も出展し、「氣まぐれ茶屋ちえこ」「ニコニコ菅野農園」「ふるさと飯館なでしこ館」「までい工房美彩恋人」などの商品を販売し、村の元気を発信しました。今年で12回目となるこの催しは、美味しい食や酒、工芸や芸能、美しい風景など、福島を幅広く紹介するもの。村のブースにも多くの来場者が立ち寄り、試飲や試食、会話も楽しみながら、気に入った商品を購入していました。

たくさんの笑顔をありがとう 小学2年生がホームを訪問



メッセージ付きの折り紙もプレゼント。子ども達から元気をもらって、入居者の笑顔も輝いていました

11月21日、草野・飯樋・白石小学校の2年生が、いいいてホームを訪問しました。最初は、職員の案内で施設を見学。続いて、介助のコツを教わりながら、ホールに集まる高齢者の車イスを押しました。また、交流の時間が始まると、鍵盤ハーモニカの演奏、野菜栽培についての発表など、いいいてっ子発表会「赤蜻祭」で披露したステージを再現。いきいきとした子ども達の様子に、感動の涙を流す入居者もありました。心優しい小学生と入居者が思いを通す、温かな交流となりました。

神鋼環境ソリューションから 健康食品のプレゼント



体操教室を行っていた「きつつきの会」の齋藤政行会長(左/前田)に健康食品を手渡す井土さん

12月10日、「神鋼環境ソリューション」(神戸市)の社員で、小宮仮設焼却炉(平成29年に解体)の運営責任者を務めていた井土俊輔さんが村を訪れ、同社のグループ会社「ミカリア」が開発した健康食品を住民に贈りました。井土さんは「村の皆さんを助けたいと乗り込んだが、かえって助けられ励まされた」と当時を振り返りました。贈られたのは水処理の技術から生まれた新しい健康食品で、ミカリアの大谷和由社長が効能を解説し「健康づくりに生かしてほしい」と伝えました。

元気アップポイント表彰式 50ポイント達成の5人を表彰



この日も卓球を楽しんでいた皆さん。達成者には表彰状と5,000円分のクオカードが贈られました

11月28日、福島県青少年会館体育館(福島市)で、「元気アップポイント表彰式」が行われました。元気アップポイントとは、スポーツ事業や趣味の講座など、生涯学習課の事業の参加者に付与されるポイント。表彰は、50ポイントを達成した人が対象です。今回表彰された方の一人、佐藤美知夫さん(飯樋町)は、「ここで続けている卓球のおかげ。無料開放が終了しても続けていきたい」と笑顔を見せました。集めたポイントは、家族分を合算してもOK。皆さんも奮ってご参加ください。

防犯指導隊・交通安全協会が 年末に向け街頭キャンペーン



JAふくしま未来飯館総合支店で啓発グッズを手渡し詐欺被害防止への協力を呼びかける防犯指導隊

飯館村防犯指導隊(菅野敬隊長/関根・松塚)と南相馬地区交通安全協会飯館分会(只野俊分会長/前田・八和木)が、12月14日、南相馬警察署と合同で、事件・事故防止の街頭キャンペーンを行いました。初めに「いいいて村の道の駅までい館」で出発式を行い、防犯指導隊は村内の金融機関などを巡回、交通安全協会は道の駅で交通安全を呼びかけました。参加者らは「年末年始は事件・事故が多発する。防止に努めて皆さんにいい正月を迎えてほしい」と話していました。

中学生人権作文コンテスト 栄えある表彰



表彰式の後の記念撮影。表彰状を手にする川井さん(右から4人目)と和田校長(同3人目)

法務省と全国人権擁護委員連合会が主催する人権作文コンテスト福島県大会で、飯館中学校3年生の川井萌映さんが奨励賞を受賞し、12月7日、福島地方務局相馬支局の新田公夫支局長と村の人権擁護委員が中学校を訪れ、表彰式が行われました。川井さんは、「未来への翼」北欧研修で、現地の老人施設などを訪れた経験をもとに、高齢者福祉における人権の尊重について作文を書きました。また、中学校には、人権教育の成果をたたえる感謝状が贈られました。